

フルタニ産業 インターンシップのご案内

1. 目的と特徴

- 弊社のインターンシップの目的は、参加者に仕事に準じた生きた体験をしてもらう事です。それにより、就職後のミスマッチが解消されます。
- IT 業界を志望している方で、仕事内容を知らない方にシステム開発の最初から最後まで一通りの工程が揃った擬似プロジェクトを体験して頂き、業界での仕事の理解度を深めて頂きます。
- プロジェクト内でのメンバー管理・スケジュール管理や報告書の提出など、IT 業界で働く上で必要となるノウハウが身に付きます。

2. 会社概要

- デジタル家電や携帯電話などの組込系のシステムを開発している会社です。
- 創業が1973年ですが、平均年齢が29歳と比較的若い人材の多い会社です。
- 技術者の交流が盛んで、プロジェクトを組んで会社の経営に参画しています。

3. 対象

- 大学2年生～4年生、大学院生、短期大学・専修学校の1年生～2年生
- プログラム言語知識がない方、情報系の学部・学科以外の学生も大歓迎します。

4. 実施期間

インターンシップ実施期間は以下の通りです。

第3期インターンシップ	2006年12月04日～2007年01月12日
第4期インターンシップ	2007年01月22日～2007年02月26日
第5期インターンシップ	2007年12月26日～2007年03月30日

上記期間にて、最長20日間での擬似開発を実施します。(※期間調整は相談承ります)

5. カリキュラム (別紙参照)

- システム開発に全体像やプロジェクトの各フェーズでのノウハウを講義。
- 擬似開発を行い、仮想ユーザーからの仕事の受注、開発、納品までを体験。
- 擬似プロジェクトと平行して、プログラム言語学習も実施。
- インターンシップ完了後、大学、参加者に実習評価を提出。

6. 待遇

- 勤務時間は、9:00～17:30。
- 時間外及び休日出勤は原則ありませんが、スケジュールに重大な事態が発生した場合で参加者が望んだ場合には許可いたします。
- 近畿圏(通勤2時間以内)の方には交通費全額補助、昼食支給。

7. 申し込み手順

- インターンシップの申し込み手続きは、各大学の手順に準じます。
- 個人でお申し込みの場合には、下記連絡先にお申し込みを頂いた後、面談もしくは電話にて受け入れを決定いたします。
- お申し込みの際には、個人票と誓約書が必要になります。
- インターンシップ開始時期の一週間前までにお申し込み下さい。

8. 連絡先

フルタニ産業株式会社 研修センター
〒550-0013 大阪市西区新町1丁目32-16 TOPビル2F
Tel 06-6531-7608 (直) Fax 06-6531-7608
担当者 システム開発部室長 吉武 涼
yoshitake@furutani-sangyou.com

カリキュラム内容

1.	システム開発とは？	講義	システム開発全体の流れに関して説明。企画、コスト（予算・経費・開発費）、要員計画、スケジュールなどを学ぶ。
2.	要求分析とは？	講義	要求分析の目的とユーザーインタビューでの注意点、調査分析・提案の必要性に関して学ぶ。
3.	基本設計とは？	講義	システム分割、データ設計、GUI 設計などの基本設計に関して学ぶ。
4.	評価の重要性に関して	講義	評価（システムテスト）の重要性に関して学ぶ。
5.	議事録に関して	講義	議事録を書くに当たっての注意点などを学ぶ。
6.	報告・連絡・相談に関して	講義	日報や週報に記載すべき事、報告・連絡・相談のタイミングに関して学ぶ。
7.	ユーザーインタビュー	擬似開発	仮想のシステムの発注先にどのようなシステムを実現したいかをインタビューする。また、様々な要求・条件をユーザーから聞き出す。
8.	要求分析	擬似開発	ユーザーの要求を整理・検証し、システムを作成する上での要件を定義。※しっかりとした調査が必要（要件定義書）
9.	内部レビュー ※以後も必要に応じて随時実施	擬似開発	要件定義書をユーザーに提出する前に、開発者によってチェックする。また、開発者も作成するシステムの概要を理解する。（レビュー議事録）
10.	要件定義書提出	擬似開発	要件定義書をユーザーに提出し、説明する。ユーザーからの指摘や要望に関しては、今回のシステムに反映するか検討し、対応を回答する。（議事録）
11.	基本設計	擬似開発	要件定義に基づき、システムをどのように作成するか定義。（基本仕様書）
12.	プログラム設計	擬似開発	基本設計に基づき、システムをどのようにプログラムで実現するかを定義。（プログラム仕様書：画面設計、ファイル設計、状態遷移など）
13.	プログラミング	擬似開発	プログラム設計に基づき、ソースコードを作成。
14.	単体テスト	擬似開発	関数単位でテスト実施。
15.	テスト設計	擬似開発	要件定義・基本設計に基づき、システムが定義されている要件を満たしているか評価する為に、どのような試験をどのような方法・順番で実施するかを決める。（テスト計画書、テスト仕様書）
16.	システムテスト	擬似開発	テスト計画書・テスト仕様書に基づき、テストを実施。不具合が出た場合には、プログラミングのフェーズに戻りプログラムを作成し直す。（テスト成績書作成）
17.	取扱説明書作成	擬似開発	各仕様書を基に、システムの操作を記述した使用者向けの取扱説明書を作成する。（取扱説明書）
18.	納品準備	擬似開発	インストーラーの作成とテスト、その他納品物件の準備（インストーラー、納品書）
19.	納品／検収	擬似開発	システム一式をユーザーに納品する。（請求書）その後ユーザーにてシステムの検収が行われる。（検収完了証）
20.	プログラム学習 ※プログラム経験が無い人向け	実践	C言語の概要から構文・ポイントなどを課題実践を交えて学習する。
21.	研修終了レポート作成	実践	研修の感想、問題点など
22.	発表会/打ち上げ	実践	検収の評価結果により、打ち上げの予算決定